

ラーモス移住地平和資料館が全焼 蜂の巣駆除が火災の原因に



ほぼ全焼した平和資料館

火災で輝きを失った「ナガサキ平和の灯」の室内灯火台

再建に向けて幅広く支援を求め

サンタ・カタリーナ州フレイ・ロジェリオ市にあるラーモス移住地からの情報によると、同地にある平和資料館で22日午前11時頃に火災が発生し、同資料館がほぼ全焼したという。資料館の視聴覚室に以前からミツバチが巣を作り、来訪者への襲撃の危険があったため、市の職員の参加を得て移住地の関係者が煙による駆除作業を行っていたところ、資料館に火が燃え移った。けが人などは出なかったものの、移住地関係者は再建の財源をどこから捻出するかなど、頭を痛めている。

ラーモス移住地関係者の話によると、以前から平和資料館視聴覚室の角の天井部分にミツバチが巣を作り、来訪者（特に子供たち）への襲撃が心配されたために、クリチバーノス市の消防署に駆除依頼を行っていたが、「当分の間は無理と断られていた」という。同資料館には今週、2つの小学校から約100人の生徒たちが来訪する予定だったため、22日午前からフレイ・ロジェリオ市役所の職員1人の参加を得て、移住地関係者がハチの巣の駆除作業を実施した。以前にも何回か殺虫剤をかけたりするなどの駆除作業を行ったが不成功だったとし、23日は煙での追い出しを試みた。しかし、天井の素材がアルミスレートに発泡スチロールをビニールコーティングしたものであったため、そのことを認識しないまま不用意に火を近づけたことが原因で資料館に燃え移ったようだ。炎は急激に燃え広がり、火が点いた発泡スチロールが落ちてくるなど危険な状況に陥った。関係者の話では「『平和の鐘』だけしか持ち出すことができなかった」とし、消防車が到着したのは火災発生から30分を過ぎた頃で、火の回りが非常に早かったため、ほとんどなす術がなかったようだ。

この火災で、昨年12月に届いた「ナガサキ平和の灯」の室内灯火台もステンレスの輝きが失われ、ガスボンベも破裂したという。幸い、けが人はなく、「ナガサキ平和の灯」の充電池の一部が別の場所に保管されていたため、灯火台が再建された場合でも問題なく点火はできるようだ。

平和資料館の再建を前提に関係者の会合が近日中に開かれる予定だが、市、州、連邦政府の財政状況が逼迫（ひっばく）している現在、移住地関係者は再建の財源をどこから捻出するのか頭を痛めている。ラーモス被爆者協会会長の小川渡さんは「再建にあたっては多大な労力と資金を必要としますが、これは世界の平和を願うすべての人々の協力なしには成し遂げられないものです。まだ再建プロジェクトは白紙状態ですが、プロジェクトが動き出しました時には皆様のご協力をお願いします」と幅広い支援を求めている。今回の火災で事態を知った各地の人々からは既に、同移住地に励ましと協力の申し出のメールやメッセージが届けられているという。

2016年11月25日付